

ニュースレター

NPO法人 家庭的保育全国連絡協議会



8号 2010.5.9

■緊急のお知らせ

本協議会のホームページのアドレスは <http://www.familyhoiku.org/> です。
旧アドレス <http://www.zen-hoiku.net/> では、接続できなくなりましたので、
お気に入り登録を直していただけるようお願いいたします。

はじめに

理事長 鈴木道子

春爛漫の今日この頃、入園当初の賑やかさもようやくやま場を越え、子どもたちの笑顔が多く見られるこの頃ではないでしょうか。外では可愛らしいランドセル姿の1年生に、思わず見とれる私たちですね。

さて、家庭的保育もようやく4月より改正児童福祉法による新しい家庭的保育事業として、スタートすることが出来ました。これを機会に、全国の家庭的保育者と繋がり、少人数の乳幼児を家庭的な環境で保育する家庭的保育を広め、多様な保育サービスの一つとして定着できるよう質の高い家庭的保育を目指していきたいと思えます。

待機児童数は過去最多の46058人(2009年10月厚生労働省調べ)であったことが先ごろ公表されました。このニュースに加え、家庭的保育事業がスタートしたことにより、マスコミからの取材も増えました。テレビでは連日のように家庭的保育が取り上げられ、家庭的保育に関心を持って下さる方々への社会的周知も図られるようになりました。マスコミの多くは「家庭的保育は待機児童対策の切り札になるのでしょうか?」という視点で、家庭的保育者の資格要件が緩和され、認定研修を受ければ誰でも家庭的保育者になれるという点をアピールしていました。本協議会では「増える待機児童と保育の質」という視点から、質を担保した量の拡大を図り、保育制度の選択肢の一つとしての家庭的保育を位置づけることの必要性を伝えるために取材協力しています。

家庭的保育は子どもの命を守る大変責任の重い仕事であり、誰でもが、研修さえ受ければやれるような甘い仕事では決してありません。保育士になるための学びや経験の上にさらに、家庭的保育独自の研修(基礎研修)を受講して、スタートするものと思っております。そのことを、3月下旬に行われた内閣府の「子ども・子育て新システム検討会議」の作業グループ個別ヒアリングでも伝えてきました(別添資料「今後の家庭的保育のあり方について 私たちの意見」をご参照ください)。

私たち家庭的保育者はこの4月から本協議会主催の現任研修で自己研鑽に努めております。今年度も皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

☆目次

1P	はじめに	7P	おすすめ絵本
2~3P	出前講座報告	8P	家庭的保育事業の認知度
4P	親子セミナー報告	9P	福祉医療機構助成/活動内容報告
5P	パネルシアター研修報告	10~11P	事務局便り
6P	我が家の保育		会員専用情報提供のメール配信

■事務局 241-0005 神奈川県横浜市旭区白根 4-3-8 FAX045-489-6115 <http://www.familyhoiku.org/>

家庭的保育者が出かけていきます！ 出前講座

平成 21 年度独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）の助成により、家庭的保育普及啓発事業の一環として、出前講座を実施しました。出前講座とは、自治体や関係団体などの要請を受けて、数人の家庭的保育者が出向き、保育中の写真などを使って、具体的に家庭的保育を紹介するものです。昨年度行った、4 回の出前講座は、いろいろなバリエーションで行われました。

助成事業は昨年度で終了しましたが、今後も出前講座は本協議会の活動の一つとして、継続していきたいと考えています。どのような出前講座が可能かご紹介します。

行政職員向け出前講座

県主催で、県下の市町の保育担当の方々約 30 名を対象に出前講座を行いました。

出前講座の内容は、家庭的保育の特長を伝える「家庭的保育の概要」、具体的に家庭的保育の写真などを見せながら紹介する「家庭的保育の 1 日」、そして家庭的保育を実施するうえで必要な支援体制や、課題などに触れる「家庭的保育の問題点と課題、その解決方法」の 3 本立てで、最後に質問の時間を設けました(75 分)。

家庭的保育の導入を具体的に検討する前の出前講座でしたが、三重県子ども家庭室副室長の黒田和博氏からは、「今までと違



った、子どもの発達にきめ細やかに対応できる家庭的保育は、公的保育の一環としてますます重要な役割を担っていく事を認識するとともに、今後、事業実施に向け市町と協働して取り組むべき課題が、明らかになった」との感想をいただきました。

(ニュースレター 7 号に掲載)

講演の中での具体的事例の紹介

当協議会の会員でもある福川須美先生（駒沢女子短期大学教授）の講演「もっと知りたい！家庭的保育」(120 分)のなかで、同行した家庭的保育者 2 名が実際の保育の様子を、具体例をあげながら話しました。

愛知県の主催で行われ、参加者は、行政職員の方のほか、ファミリーサポートセンターや地域子育て支援関係の方々です。

参加者の中には、保育士・幼稚園の教諭資格をお持ちの方も多く、「『家庭的保育』の温かさがわかり、この保育でなければと希望する家庭もあり、更に、広げる必要がある。」など、家庭的保育に共感する感想も寄せられました。

家庭的保育者向け出前講座

家庭的保育者を対象とする研修の中に、出前講座が組み込まれて実施されました。参加者は名古屋市の家庭的保育者で、保育経験が 2 か月～20 年の方まで 14 名です。

テーマは【みんなで考え、ともに話し合おう！一気になる子どもへの対応】で、グループ討議形式で行われました(120 分)。当協議会からは、講師のほか家庭的保育者 3 名が討議に参加しました。3 つのテーブルに分かれて事例をとりあげ、保育をする中で、共通の悩みを話し合いました。

本協議会から家庭的保育者が参加した事により他地域での保育の様子、支援体制のあり方、保育者同士がつながるネットワークの大切さなど家庭的保育に携わる者同士の話し合いは想像以上の学びあいがありました。情報交換が自分たちの保育を高めるよい刺激となることを、参加者だけでなく、出前講座を担当した保育者も実感しました。



ファミリーサポートセンター会員向け 出前講座

ファミリーサポートセンター会員を対象とする出前講座を行いました(120分)。

家庭的保育の導入が市長のマニフェストとなっている志木市からの要請に応えたものです。家庭的保育を紹介する一連の講座内容に加え、ここでは「家庭的保育のあそび」を取り上げて写真で紹介しました。

さらには、18名の参加者の方にも参考にしていただけるようにと、手作りおもちゃの紹介や手遊び等実技も組み込みました。保育実技には、参加者の目が輝き、おもちゃを手に取り感嘆の声。手作りおもちゃの講習会を望む声もありました。保育の内容を示す事で、質の高い保育であることも、理解して頂けたと思います。

出前講座を担当して

出前講座という初めての試みは、電話とメールを頼りに進めていくので不安もありました。が、実際にはメール上でのことばのやり取りに、相手の様子が思い浮かび、お会いした時は、以前からの知り合いの様な親しみがありました。

自治体の職員の方・子育て支援事業の方・家庭的保育者と、毎回、対象が替わる講座でしたが、いずれの場でも家庭的保育の本当の姿を伝え、普及啓発するためには、足を運び、生の声でこの保育の良さ・課題を伝えていくことが、如何に大切か、実感できました。

伝えるために、担当する私たちも家庭的保育の良さや、問題点を見つめ直す機会をもらいました。今回計9人が、出前講座を担当しましたが、これからも多くの会員に関わっていただきたいと切望します。出前講座を担当すること自体が、自身の保育を高める栄養となり、地域を隔てて知り合い・つながる事は、家庭的保育事業を保育の選択肢として、位置づけるものになると確信しました。この、出前講座を通じて、私たちの仲間が増えたことも、大きな喜びです。

(出前講座については HP をご参照ください)

出前講座担当 福島泰子

■WAM 子育て基金助成事業■

☆親子セミナー “いっしょにあそぼ！” 報告

2月28日(日) WAM 子育て基金助成事業として、NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会が主催する、親子セミナー “いっしょにあそぼ！” が開かれました。

家庭的保育者が、まだ利用していない子どもと一緒に遊びながら、自分たちの保育の良さを、広く知ってもらおうというこのセミナーには、約 30 組の親子や、祖父母が、参加～家庭的保育の紹介コーナーや、パネル・エプロンシアターのお楽しみコーナー、折り紙や小麦粉粘土での遊びコーナーなどで、ワイワイ楽しく過ごしました。

手作りおもちゃに感心したり、保育者と手遊びやわらべうたを楽しんだり、会場には沢山の笑いと歌声が響きました。二時間半の開催でしたが、また参加したいという感想を多く頂きました。

◆アンケートの回答をご紹介しますと〈回答数 32名〉

広報活動としては、会員、支援者、自治体にニュースレターで、チラシ 375 枚を配布。また、横浜市の公共施設で、チラシ 500 枚を配布しました。

1. 参加した感想→とても良かった 62.5% (20名) 良かった 37.5% (12名)
2. 開催を知ったのは→公共施設のチラシ 62.5% (20名)
家庭的保育者から 18.75% (6名)
3. 家庭的保育を知っていたか→よく知っていた 15.7% (5名)
聞いたことはあった 34.3% (11名)
全く知らなかった 50.0% (16名)
4. 家庭的保育への理解は→よくわかった 46.8% (15名)
少しわかった 50.0% (16名)
5. 個別の感想としては→楽しかった (8名) また来たい (5名)
アットホームな雰囲気良かった (2名)

その他、子どもとふれあう時間が持てた、よい企画だ、家でもこのように遊んでみたい、家庭保育室に是非入れてみたい、手作りおもちゃに温かみを感じた、家庭的保育がよくわかった～などのご意見を頂きました。

◆二歳のお子さんの保護者 齋藤 聖美さんは

会場で印象的だったのは、「ねんどあそび」で使っている「ねんど」でした。私が、子どもの頃遊んでいた粘土は、緑色の、匂いがきつく、べとべとのものでした。

会場で使われていた粘土は、いろいろな色があり、感触もフワフワしていてとても楽しそうでした。聞くと、先生達の手作りで、しかも、口に入れても害のないもの（小麦粉や塩など）で作られていました。子ども達が普段このような先生の手作りのもので遊んでもらっていると思うと、安心で、温かく、とてもうれしい気持ちになりました。

会の終盤は、先生方によるペープサートや、歌などでした。

子どもたちもみんなで歌いましたが、とても満たされた、楽しい時間でした。

この様な会に参加させて頂いた事で、子ども達の日常を少し垣間みる事ができ、さらに「家庭保育」というものがどんなものなのかを理解する事ができました。一緒に行った主人も、とても興味深そうに、展示されている各保育室の写真や映像を見ていました。～とのことでした。

パネルシアター研修会を終えて

杉並区家庭福祉員グループ 上田 和子

2月28日午後1時30分からは、同じウイリング横浜会場で、研修会を開きました。パネルシアターの魅力をもっと学ぼうという主旨で、講師は、パネルシアター作家の、松家まきこ先生にお願いしました。

◎ 感謝いっぱいの研修会

参加者は、会員、非会員、一般の方も含めて40名ほどで、松家先生の、オリジナル作品を多数演じていただき、私たちが作品を作る時の様々な工夫や、細かい技も教えていただきました。また、私たちの質問にも一人一人丁寧に答えしてくださり、感謝の気持ちでいっぱいの研修会となりました。

◎ アンケートには感動のメッセージ

参加者のアンケートからは、「まるで劇場のようで、感動しました。」

「日ごろ、パネルシアターをやってきたが、あらためて、その楽しさ、奥の深さを実感させてもらいました。」などの声が数多く寄せられました。

私もこの日、「園生活」のパネルシアターを拝見し、これまで子どもたちと過ごしてきた日々を思い巡らし、ブラックパネル「翼をください」では、思わず胸があつくなってしまう。何よりも先生のパネルへの熱い思いが伝わってきました。演じる人と、観ている人が共感し合えるパネルシアターは、やはり素晴らしいと改めて思いました。

今年度から、国の制度に家庭的保育が位置づけられましたが、一方では、多様な保育施設ができています。今後も今まで以上に、保護者の皆さんから、家庭的保育を選んでいただけるよう、私たちは質の向上を目指し学び続けていくことが不可欠だと思います。

☆食育で健やかな成長を！

前 名古屋市家庭保育室
谷 勝子

■ キレル若者を憂い、保育室を開設～

一端、現役を引退したものの、日頃から「キレル若者、何故？」と、事ある毎に思案しておりました。以前耳にしていた、カルシウム不足による精神的不安定等によると思い当たることもありました。将来を担う子ども達の食生活を主にした食育と、更には核家族の親たちとのコミュニケーションを図りたいと、半年後に保育室を開設致しました。

■ 食育のモットー

本来私たちが安心して食べてきた食材を使って、山・里・海の植物性、動物性をバランス良く取り入れ、更には、咀嚼力の付くもの(頭脳の発達)を考えました。おやつには、補食プラス楽しみも取り入れ、昼食には十五品目を目処にしました。やはり、食べることでの繋がりは、早く、深く、とても楽しい団らんの時間となりました。家庭での食生活をも観察することが出来たので、親さんたちへの援助も、スムーズに出来ました。

■ 保健師さんとの連携

当初まず驚いたのは、若い親たち(特に十代)は、子どもと共に、菓子袋ごとの生活が中心になったりしていたことです。保健師さんに訪問依頼すると、そこには、若くして出産し、離婚へと早い経過を辿り、親の援助が受けられないケース、おしゃれママでも、子どもの衛生・衣服管理には無関心で、悪臭を放っているケース、家庭生活・子育てに疲れ、精神的には不安定な、優雅なママたちがおりました。

なるべく、祖父母との接点を重ね、保健師さんとの横のつながりを深めることで、改善へと向かいましたが、当時は、毎日が、事件を避けようと、必死でした。

■ アルバムや連絡ノートを中心に

いま、成長された子と親さんが、姿を見せて下さり、保育の幸せをかみしめる時もあれば、「あの子は、いまどうしているのか？」と思案する時も時折です・・・

学期毎に、アルバムを作成し、年間通しての連絡ノートには、絵付きコメントを楽しんで描き込み、親には必ず言いました。「思春期になって、荒れだしたら、このノートをさりげなく見せて！」と。

成長果敢な時に、懸命に育児に参加させて頂き、いまは、感謝しかありません～心の財産を糧に、子ども、老人社会の中に進んでいる現在です。

■家庭的保育事業の認知度

福川 須美

この4月から家庭的保育事業が児童福祉法に位置づけられた国の制度として施行されるにあたり、マスコミの取材が相次ぎ、少しは世の中に知られてきたかと思われませんが、日本保育協会が厚生労働省の補助事業として平成21年度に実施した、公私立認可保育所対象の「保育所のあり方に関する調査研究報告書」には、家庭的保育事業についての調査項目があります。保育所はどのくらい家庭的保育事業を知っているでしょうか。

また、保育所が実施することについてどんな風に考えているでしょうか。同報告書から紹介したいと思います。

まずは認知度ですが、「知っている」は「民営保育園」は43.4%、「公営保育園」は37.4%、「事業を初めて知った」は前者が19.7%、後者が28.4%、「詳しい内容を知りたい」は、前者が18.2%、後者が27.5%と「公営保育園」の方が関心が高いようです。

地域別では、「詳しい内容を知りたい」は北信越、北海道・東北など地方が関心が高く、関東、近畿など都市部は低い傾向が伺えます。

地方では人口減少による対策として関心があるようです。

家庭的保育事業の取り組みの現状は、「すでに実施」が全体で1.6%、「今後実施を検討」4.6%、「連携保育所で検討」4.6%で、合わせて10.6%に過ぎません。「検討しない」が38.2%、「分からない」が46.1%で合計84.3%を占め、まだ認可保育所の取り組みには至っていないといえるでしょう。

「今後実施を検討する理由」としては、市町村における保育所の待機児解消、人口減少による、施設設備の必要がない、などが挙げられていますが、今後検討すると回答した88.1%は理由が未回答であり、事業の名称は知っているが、詳しい事業内容までは分かっていないように推測されます。

「検討しない理由」を回答した園も、たった8%ですが、「小規模保育による保育内容の不安」「職員の孤立・代替の不安」「場所・整備の不安」などが挙げられています。集団保育を実施してきた保育所から見ると、子どもの集団が形成できないことは保育内容に不安を感じるのでしょうか。さらに経営的には保育所とは別事業であり、一体的運営に欠けるデメリットが指摘され、具体的には「保育所の直接処遇職員としての扱いができない」「社会保険加入、福祉医療機構の退職金加入等で問題がある」など懸念され、保育所と一体的に行うことで、運営の効率化や、職員ローテーションの活用などにより、取り組みやすくなると述べています。22年度からは、保育所雇用型になりますし、連携保育所との協力等により、このあたりの問題が解決されるのかどうか、見届けたいところです。

以上のように、この調査結果からは、まだまだ認可保育所の認知度は低いといえます。しかし関心はないわけではありませんから、今後も広報普及活動を継続して、だれでもが家庭的保育を「知っている」と答えられるようにしたいものです。

2010年度も（独法）福祉医療機構の助成金で活動します！

2009年度は（独法）福祉医療機構（WAM）子育て支援基金により、家庭的保育普及啓発事業を行い、家庭的保育を視覚的に、具体的に伝えるためのツールの開発（パンフレットやリーフレットの制作、配布、ホームページ）、出前講座、セミナーの実施（家庭的保育普及啓発セミナー、親子セミナー）など、本当に盛りだくさんの活動を行いました。

家庭的保育の普及啓発に一役買うことができたことと、この事業を通じて会員がそれぞれの関わり方で参加することができたことが、嬉しいことです。

2010年度も（独法）福祉医療機構より「社会福祉振興助成費補助金」の助成を受け、「家庭的保育研修等事業」を行います。概要は以下の通りです。

1. 研修事業 — 家庭的保育の質の向上を目指して

○平成 22 年度 家庭的保育現任研修

国の規定する 7 科目計 18 時間の現任研修を網羅する研修を、全 11 回行います。

すでに現任研修はスタートしており、講座 1、講座 2 は盛況のうちに修了しました。

研修修了後の感想は「楽しかった!」、「来て良かった」、「明日からがんばる」など、前向きな感想が、多く寄せられました。

家庭的保育者を元気にする研修です。詳細はホームページでご確認ください。

<http://www.familyhoiku.org/>

○家庭的保育 基礎研修

家庭的保育者に義務づけられる家庭的保育基礎研修を、関東と関西で各 1 回、それぞれ 4 日間の日程で行います。この基礎研修は、日本子ども家庭総合研究所「家庭的保育のあり方に関する調査研究」に参加する先生方の協力の下に行うもので、広域からの参加者を募るものです。

各自治体に向けて近日中にご案内をお送りします。

2. 自治体情報データベース — 自治体との連携

○情報誌の作成

家庭的保育を実施する各自治体の実施の状況や、事例の紹介などを情報誌としてまとめ、提供します。

○HPでの情報提供

家庭的保育に関心を持った方が、居住地のある地域で家庭的保育が行われているかどうかを確認したり、あるいは問い合わせ先を調べたりできるよう、HPで情報提供を行います。

特に、自治体情報データベースの作成にあたっては、各地の会員や自治体の協力が欠かせませんので、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

（尾木 まり）



☆事務局からのお知らせ・お願い

☆本協議会のホームページは <http://www.familyhoiku.org/> です。

旧アドレス <http://www.zen-hoiku.net/> では、接続できなくなりましたのでお気に入り登録し直していただきますようお願いいたします。

☆会員の継続（新規加入も大歓迎）をお願いします。

今年度の会員資格は平成 22 年 5 月 31 日で終了となります。1 年ごとの更新となっておりますので引き続き 22 年度も会員として、どうぞよろしくをお願いします。

同封いたしました振り込み用紙によってご入金いただければ継続完了となります。

（住所、電話番号など変更があれば連絡をお願いします。）

☆7 月 4 日（日） 通常総会・セミナー開催予定

開催場所 神奈川県立近代文学館

〔通常総会〕午前 10：30～11：30 予定

21 年度事業報告、22 年度事業活動の案など審議いたします。

議案内容など詳細(資料)は、後日郵送いたします。同封する返信はがきで出欠の連絡をお願いします。

〔第 3 回セミナー〕午後 1：00～5：00 予定

家庭的保育が法定化しました。これから保育の現場はどう変化していくのか、自治体の対応は？新しい家庭的保育を考えていきましょう！

前年度の WAM 事業の報告もあります。お楽しみに！

☆8 月 7, 8, 9 日 第 42 回合研 / in 岩手

今年は、岩手で開催です。東北の方たちや各地域の方たちと家庭的保育について語り合いましょう！是非ご参加ください。

☆4 月から 22 年度 WAM 事業が始まっています。

今年も独立行政法人福祉医療機構から助成をうけて活動することになり、現任研修 講座 1、2 が 4 月 25 日に実施されました。空きが少ない講座も増えてきましたので、早めにお申し込み下さい。専門分野でご活躍の先生から多くを学び、みんなで語り合い家庭的保育を高めましょう。詳細は、ホームページをご覧ください。

☆今月（5 月 29 日）につぼん子育て応援団 フォーラム開催

市民活動団体・NPO、自治体、当事者などみんなで子ども・子育ての新システムを考える「につぼん子育て応援団」のフォーラムが開催されます。

第1回子ども・子育て応援会議 ※詳細は同封の案内チラシをご覧ください。

・日時：5月29日（土）13時～17時30分

・場所：明治学院大学 2号館・3号館

☆本協議会団体専用保険は・・・

ちょっと嬉しい報告です！

今年4月から初めて家庭的保育制度を取り入れることになった〇自治体の担当者によるとこの制度の開始にあたって保険の検討をし、ある保険会社に家庭的保育の保険を作っていただくようお願いしたそうです。結果 本協議会の内容と変わらない保険をつくると、掛け金が1万円も多かったとのこと。「この協議会の保険がよいので、〇市では、保育者の方に正会員になって保険に加入していただくことにしました。」と連絡をいただきました。

本協議会の団体専用保険が、家庭的保育者のための保険として充実していることが認められた結果ですね！

☆事務局へのお問合せは・・・

〒241-0005 神奈川県横浜市旭区4-3-8

FAX 045-489-6115 mail:info@family.org までお願い致します。

会員専用情報提供のメール配信が始まります

家庭的保育全国連絡協議会では、家庭的保育に関する情報についてはこのニュースレターをメインに、ホームページの「情報クリップ」でも情報発信をしてきました。この4月に家庭的保育が新制度としてスタートするにあたり、テレビ・ラジオ・新聞などで取り上げられる事が増えてきました。今後もしばらく続くと思います。ニュースレターやホームページでは急なテレビ番組の予告をお知らせできませんでしたので、このたび、会員の皆様向けにメールにてお知らせするサービスを始めることになりました。3月下旬からテスト的に情報配信を始めており、すでに、3月25日フジテレビ「スーパーニュース」、3月27日日本テレビ「ズームイン」、3月27日テレビ東京「週刊新書 ニュース」、3月29日フジテレビ「ニュース JAPAN」、4月1日ラジオNHK 第1放送 「ニュースここ一番!」、4月1日NHK「ニュースウォッチ9」、4月14日朝日新聞神奈川県版、4月20日テレビ朝日「スーパーモーニング」など、家庭的保育に関する番組や記事の予定をお知らせしてきました。

メール配信をご希望の方は info@familyhoiku.org 又はホームページのお問い合わせメールにて ①お名前 ②自治体名 ③配信希望のメールアドレス（複数登録可）を明記の上、お申し込みください。

尚、このメールは配信専用ですので、登録者同士の情報交換や返信はできません。また、メール配信は会員に限定しておりますので、会員以外でご希望される方は是非ご入会いただきますようお願いいたします。

皆様にお知らせしたい情報がございましたら、同じく info@familyhoiku.org までメール下さいますようお願いいたします。

（担当 松岡かよ子）